

チンゲン菜に対する甘彩六花試験



<試験概要>

- 試験場所 茨城県行方市
- 品種 夏双子
- 定植日 2016年7月17日 ・収穫日 2016年8月25日
- 散布方法 500倍希釈の葉面散布にて、収穫日より約1ヶ月前から4回散布
- 散布日 7月27日、8月3日、8月10日、8月17日
- 散布コスト 1反1回当たり原液を200ml(340円)使用×4回散布 1反当たりのコスト1,360円

<サンプル採取方法>

- 採取場所 ランダム
- 測定箇所 葉・茎全部
- 試験測定日 2016年8月25日

<試験結果>

糖度測定結果 (単位：%)

採取場所	1	2	3	4	5	平均	
対照区	1.00	1.30	1.10	1.30	0.70	1.08	
甘彩六花試験区	1.10	1.40	1.10	0.90	1.50	1.20	平均0.12%上昇

硝酸値測定結果 (単位：ppm)

採取場所	1	2	3	4	5	平均	
対照区	3,700	3,700	4,900	4,600	4,600	4,300	平均1580ppm減少
甘彩六花試験区	2,800	2,500	3,200	2,600	2,500	2,720	36.7%減少

重量測定結果 (単位：g) ※5株平均

採取場所	調整重量	根重量
対照区	84.8	4.5
甘彩六花試験区	117.4	5.6

1.1g重い
24.4%増加

**調整重量
平均38.4%増加！**

葉長 (単位：cm) および葉枚数

採取場所	葉長	葉枚数
対照区	23.8	11.6
甘彩六花試験区	26.0	11.0

2.2cm長い

葉色および各種土壌診断結果

採取場所	葉色		pH	EC	石灰	苦土	カリ	リン酸
	SPAD値	KCL抽出						
対照区	30.9	6.33	1.08	943	165	153	350	
甘彩六花試験区	34.8	6.41	0.849	977	179	184	390	
増加量	3.9	0.08	-0.23	34	14	31	40	

<まとめ>

- 甘彩六花を散布することにより、**硝酸値の大幅な減少(約半減)**と**糖度が上昇**した。
- 糖と硝酸が結合して起こるアミノ酸生成が促進により、**重量の大幅な増加**を確認できた。枚数が若干少ないが、**葉が長く・大きく生育している**事が重量の増加になっていると考えられる。

左が対照区。 右が甘彩六花試験区。

